

一般入試前期A日程1日目

国語

I

出典 池内 了「科学は、どこまで進化しているか」(祥伝社 2015年)

過去6億年の生物進化の歴史をたどると、種の99.9%まで絶滅しており、種は絶滅するというのが自然界の鉄則と考えられる。では、人類は何が原因で絶滅するのか、その可能性について持論を展開しています。

問1【漢字の書き取り問題】(解答番号は 1 ~ 7)

a 頻繁、b 累積、c 雌雄、d 廃棄、e 飢餓、f 貧窮、g 制覇が正答で、全問正答率は1%でした。「廃棄」を「排棄」とする誤記や、「雌雄」を正答できていない受験生が多くいました。

問2【空欄補充・文脈把握に関する問題】(解答番号は 8)

空欄 I と空欄 II の合理的な関係を、空欄 III が簡潔に置き換えて表現していることに気づく必要があります。空欄 III のすぐ後に「といってもよい」との置き換えの表現があるからです。正答は⑥で、正答率は57%でした。

問3【空欄補充・文脈把握に関する問題】(解答番号は 9)

四字熟語に関する正確な意味の理解が必要です。隕石衝突、巨大津波、山火事などの大災害の発生という状況から、解答は容易に導けるはずです。正答は⑧で、正答率は94%でした。

問4【空欄補充・文脈把握に関する問題】(解答番号は 10)

空欄の直前に「遺伝子はゆっくり劣化していき、ついに」と記されているので、文脈を読み取ることは容易でしょう。正答は⑥です。正答率は96%でした。

問5【空欄補充・文脈把握に関する問題】(解答番号は 11)

本来は若い段階にあるはずの遺伝子が、近代以降に劣化が進んだということを文脈から読み取ることができるはずです。正答は⑧です。正答率は90%でした。

問6【空欄補充・文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は 12)

空欄の前にある「遺伝子欠損や逆の過剰など」を、遺伝子にとってどのような状況が進行していると判断するかが鍵になります。正答は①です。正答率は89%でした。

問7【空欄補充・文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は 13)

人類が自重し賢く行動することで、生存の可能性を最大限に引き延ばすことを願う文脈であることを理解し、合理的な正答を求めることが必要です。正答は⑤です。正答率は34%でした。

問8【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は 14)

直前の文と前の段落を丁寧に読めば、正答は容易に導けます。正答は①で、正答率は100%でした。

問9【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は 15)

この小見出しの文全体で説明される自然大変動の具体的な内容を正確に把握することが鍵です。正答は②です。正答率は83%でした。

問10【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は 16)

遺伝子の劣化が急速に進んでいると仮定すれば、どのような事態に陥るのかという全体の文脈を意識することが必要です。正答は①です。正答率は65%でした。

問11【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **17**）

直前に「以上のような」として全体を総括する記述があるため、この小見出しの文全体の内容を正しく理解していることが前提となります。正答は⑥です。正答率は74%でした。

問12【内容理解による小見出しの選択問題】（解答番号は **18**）

この小見出しの文は最後の段落に「いずれにしろ」として、問題の本質を明示する記述になっていることに気づくでしょう。正答は④です。正答率は56%でした。

問13【内容合致問題】（解答番号は **19**・**20**）

正答は①と⑨です。②については大量絶滅は過去5回あった種の絶滅のことであり、遺伝子の劣化による種の危機ではありません。③に関しては二畳紀末の大量絶滅の際の火山活動は、原因不明とするのが筆者の考えです。④については種の99.9%の絶滅は自然界の鉄則を予想させるだけです。⑤に関してはホモサピエンスは猿人の直接の祖先ではありません。⑥については「両性具有」ではなく「雌雄の性を持つ」が正答です。⑦では「巻き上げられた塵が巨大クレーターを作り」が誤りです。⑧は人類も種であり、滅亡を回避することはできません。1問正答率は51%で、2問正答率は2%でした。

問14【内容理解による表題の選択問題】（解答番号は **21**）

回避できない人類滅亡の原因について、その最大の可能性を論じています。正答は⑥です。正答率は63%でした。

II

出典 吉見 俊哉「大学という理念」（東京大学出版会 2020年）

現代日本の大学が抱える問題について文化社会学を専門とする東大教授が冷徹に分析し、大学の理念について述べた本です。論旨は明快ですから、文意をつかむのは難しくはないでしょう。

問1【漢字の書き取り問題】（解答番号は **22**～**26**）

a 内省、b 完璧、c 系譜、d 隆盛、e 侵攻が正答で、全問正答者はいませんでした。「内省」と「侵攻」が出来ませんでした。「完璧」を「完壁」と書いている答案が散見されました。

問2【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ】（解答番号は **27**・**28**）

空欄 **I** は直前の「肉体的」と「精神的」が、空欄 **II** は直後の「偏狭主義を助長し」以下がヒントです。正答は **I** が⑨、**II** が①で、正答率はそれぞれ76%、61%でした。

問3【空欄補充・前後の文脈から適切なものを選ぶ】（解答番号は **29**）

空欄 **ア** の直前の説明よりニューマンの挫折が読み取れますから、正答は④だとわかるはずで、正答率は50%でした。

問4【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **30**）

傍線部Aの直前の段落をよく読めば正答は③であることが導けます。正答率は52%でした。

問5【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **31**）

本文冒頭から第3段落までをよく読み、著者が用いている「奴隷的」の意味をつかめば正答は⑥であることがわかるでしょう。正答率は44%でした。

問6【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **32**）

傍線部Cの直前の段落をよく読めば正答は④だとわかるはずです。正答率は53%でした。

問7【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **33**）

傍線部Dの2つ前の段落からオックスフォード大学の教育を、傍線部Dの直後の文からロンドン大学の教育をつかめば、正答の⑤が導けるはずです。正答率は58%でした。

問8【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **34**）

傍線部Eから少し離れますが、第5段落に正答の③を導くヒントがあります。正答率は48%でした。

問9【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **35**）

傍線部Fを含む段落をよく読めば正答が⑤だと容易にわかります。正答率は70%でした。

問10【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **36**）

傍線部Gの直後の文章をよく読めば正答は⑥だとわかります。②や③を選ぶ誤答が多く、正答率は33%でした。②は「国教会枢機卿」が、③は「『保守』の立場に対峙」が不適切です。

問11【本文の内容を理解して該当しないものを選ぶ問題】（解答番号は **37**）

効用主義が傍線部Hと同じ段落にある「有用性重視の思想」であることをつかむことができれば、正答は②だとわかります。正答率は43%でした。

問12【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は **38**）

正答は②で、正答率は6%でした。この節では功利主義やロンドン大学の教育（平等主義）に対するニューマンの批判が中心的に説かれています。④を選ぶ誤答が多かったですが、教養教育の理念に対する反発は言及があるものの、節全体の内容を代表するものではありません。

問13【内容を理解して小見出しを選択する問題】（解答番号は **39**）

正答は⑦で、正答率は18%でした。この節の第1段落でニューマンの大学論が国家と教会から干渉を受けたことが説明されています。⑥を選ぶ誤答が多かったですが、産業革命がもたらした有用性重視の思想は重要ではあるものの、産業革命そのものは本節の主題ではありません。

問14【内容合致問題】（解答番号は **40**・**41**）

正答は⑤と⑦で完全正答率は6%でした。③、⑥、⑨を選ぶ誤答が目立ちました。③は「論争があった」、⑥は「カトリックに対する干渉」が、⑨は「『学識』や『知識の習得』を退け」が本文の内容に合致せず、いずれも不正解です。